

年頭のごあいさつ



美浦村長
中島 栄

新年あけましておめでとうございます。

令和5年の新春を健やかに迎えたいと心より喜び申し上げます。

本年も皆さまのご期待に応えられるよう「人と自然が輝くまち 美浦」の村政運営の先頭に立ち、執行部と村議会の総合力を生かし、長い歴史が育んできた美浦村の文化を守りながら、皆さまと共に歩んでまいりたいと存じます。さて、昨年を振り返りますと、一昨年からの変化の年となりました。新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)が宣言されてから2年以上が経ち、諸外国では各種規制等を撤廃する中、日本でも経済面の影響を鑑み、国民の行動制限の撤廃や、自治体で自粛していた各種イベントが開催されるようになりました。本村でも、地域の活性化を要望する声が多く寄せられ、3年ぶりとなる「みほ産業文化フェスティバル」や成人式が開催されたほか、小中学校でも、運動会や遠足、修学旅行などのイベントが人数制限などの制約はあるものの行うことができました。政府でも2類相当から5類への感染症法上の分類の見直しを検討するなど、過度に恐れていた時期が終了し、少しずつ日常が戻ってきているのを実感できる1年となりました。

また近年、世界各地で地震や火山噴火などの自然災害が頻発しています。昨年1月のトンガ海底火山噴火や、9月のメキシコでのマグニチュード7を超える大地震。日本でも3月には、宮城県や福島県で震度6強を観測する地震や、7月の桜島の噴火など災害はいつ起こるか予測するのは非常に困難です。村では想定外の有事にも「備えあれば憂いなし」とするべく、防災行政無線の整備や災害時の備蓄を進めるなど、より一層装備を拡充し、より安心・安全なまちづくりを進めていきたいと思えます。皆さまにおかれましても防災意識を高く持ち、いざという時に速やかに行動に移せるよう日頃からの備えをお願いいたします。

全国の町村では少子高齢化が進み、深刻な状況が続いています。しかし、先人たちが守ってきた伝統文化の継承や自然環境の保全は、私たちが担っていくかねばなりません。魅力ある地域社会を継続していくためには、住民と行政が手を携え、主体的・自立的に施策を展開していくことが不可欠であり、それが基礎自治体たる美浦村の発展につながります。一昨年から国道125号バイパスの4車線化が進み、昨年の11月末にはトレーニンングセンター入口交差点から稲敷市佐倉の県道江戸崎新利根線までの区間が完成するなど、地域交流館周辺への新たな事業展開も見られ、まちづくりの新たな一歩を踏み出しております。

今後も「地域主権」の確立に向けて村民の皆さま一人ひとりが村づくりに参加され、「自分たちの村は自分たちで創り守る」を念頭に、真の豊かさを実感し、魅力ある、活力に満ちた地域社会となるよう最大限努力してまいります。村民が主役の村政へのご支援ご協力を心よりお願い申し上げますと共に、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

令和5年 新春